

保育士養成校学生のベビースキーマ描画

前川洋子 (豊岡短期大学)

キーワード: 保育士養成校学生, ベビースキーマ, 動機付け

保育士養成校で心理系の科目を担当している中で、概ね学生は子どものイラストを描くことを苦手としておらず、他学科や同年代に比べて可愛いらしい絵を描くことが得意な学生が多いと筆者は感じていた。

動物行動学者コンラート・ローレンツ (Konrad Lorenz) は、人間や動物の赤ちゃんの身体的特徴を「ベビースキーマ」と定義しベビースキーマにより赤ちゃんをかわいと感じたり、愛おしく思い守ろうとしたりする行動心理が誘発される、と提唱した。

問題と目的

保育士を目指す学生の志望理由は子どもが好きという動機が多く、子どもを可愛いと思う感受性が高い傾向にあり子どもに関心が高い学生が多い。

ゆえに学生はベビースキーマ認知が高く、ベビースキーマが引きおこす養護力が高いと仮定し、本研究は保育士養成校の学生が描く子どもの描画のベビースキーマ傾向を分析した。

ベビースキーマと養育行動の動機付け促進の先行研究は多く実証されているように、保育士を志す学生たちのベビースキーマ認知行動は保育の基本である。学生の適応的スキーマが子ども理解を深め、キャリアカウンセリングにつながる認知的動機づけになることを目的とする。

方 法

日時 2018 年 5 月

場所 T 県 T 保育士養成校

対象者 保育学科生 68 名 (1 年生)

方法 必須科目「保育の心理学」の授業で学生に子どもの姿を描く絵画課題を提示。

諸注意 ①保育園児 0~6 歳を想定とする。②絵を描く前に、絵自体の評価ではなく、提出は任意であることを告知。

対象絵画 65 枚 (未提出 3)

有効絵画 95.5%

倫理的配慮 子どもの絵を描いた後に本研究の趣旨を説明し研究協力に賛同を得た学生のみ無記名で回収した。

結果と考察

回収された絵をベビースキーマの定義にある 7 つの特徴に該当した数と反映割合は以下の結果である。

Table 1 ベビースキーマの特徴数と割合

	ベビースキーマ特徴	数	%
1	身体に比べて大きな頭	55	85
2	前に張り出した額を伴う高い上頭	60	92
3	顔の中心やや下部に位置する目口鼻	61	94
4	短くて太い手足	60	92
5	全体的に丸みのある体形	42	42
6	柔らかい体表面	31	31
7	丸みをもつ顔・頬	95	95

また、瞳が黒くて大きいほど可愛らしいと感じるベビースキーマの定義にある瞳に着目し、人物像の目の形状等を分類し、その割合は次に示す。

- ・瞳が黒い子ども 53 枚 (82%) そのうち瞳が大きい 21 枚、小さい 15 枚、黒点 17 枚
- ・平仮名「へ」の字 8 枚 (12%) その他、人間の目 3 枚と瞳無し 1 枚に分類できた。これらの結果から学生はベビースキーマ認知が高く、ベビースキーマが引きおこす養護力が高いと考えられる。

描画課題の後にベビースキーマを解説した際には学生の適応スキーマが学習転移を起こし、後の授業カリキュラムにおける愛着理論や子ども理解を深めるきっかけになった。

また、ベビースキーマ認知が高いという結果を受けて学生自身が適応スキーマに気づき、保育士を志す動機付けを高めることになったと考える。